

平成 30 年度第 3 回防府市図書館協議会

日時：平成 31 年 2 月 21 日（木） 午前 10 時～午前 11 時 30 分

場所：防府市役所 1 号館 3 階第 3 会議室

■出席者

（委員）藤村会長、安光副会長、山本委員、河村委員、河村委員、新田委員、
山崎委員、吉武委員、津田委員、山本委員（計 10 名）

（事務局）江山教育長、原田教育部長、河田教育部次長、原田教育総務課長、
森川図書館長、徳永図書館管理室長

■傍聴者 1 人

■議事録

○事務局

定刻になりましたので、ただ今から「平成 30 年度第 3 回 防府市図書館協議会」を開催いたします。

それでは、防府市図書館協議会規則第三条第 1 項に、「会長は会議の議長となる」と定めておりますので、これからの会議につきましては、藤村会長に議事進行をお願いいたします。

○議長

それでは、今回の会議につきましても前回と同様に、会議及び会議録につきましては、「公開」ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

では、異議なしということで、「公開」で進めてまいります。

それでは、これより議事に入ります。

「議題(1)平成 31 年度事業計画について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局

前回の第 2 回協議会で平成 30 年度の図書館事業の実施状況を御報告し、今後の事業について、御意見をいただきました。

いただいた意見と第 1 回の協議会で出された平成 29 年度の実施状況評価を踏まえて、図書館で計画案を作成しました。それから防府市文化振興財団内での協議を経て、平成 31 年度の図書館の事業計画が策定されましたので、本日は、図書館から平成 31 年度図書館の事業計画を御説明し、事業内容や進め方について

て、御質問や御意見をお聞きしたいと思います。

それでは、図書館長から御説明いたします。

○館長

それでは、資料1に沿って、御説明をいたします。

1-(1)の中で、防府図書館資料収集要綱に基づき、質・量ともに充実した資料を収集してまいります。図書購入目標冊数等につきましては、ここに書いてある通りでございます。

資料分類・目録整備業務につきましても、迅速・正確な資料の組織化、分類・目録あるいは装備作業を適正に行い、わかりやすいOPAC(オンライン閲覧目録)、利用者がコンピュータ、インターネットで閲覧できる目録を適正に提供してまいりたいと考えております。

書架管理・蔵書点検業務については、日々、適正に書架の整理・整頓を行い、全開架資料の蔵書点検を10月と3月に行います。

資料提供業務といたしましては、正確、迅速な貸出・返却・登録・予約・リクエストをルールに基づき適正に行ってまいりたいと考えております。

1-(2)では、コンピュータシステムの管理業務を、引き続き円滑に行ってまいりたいと考えております。ウェブ上での検索・予約・貸出期間延長、読書手帳、My本棚、読書マラソン等の機能の活用により、図書館利用を更に円滑に進めてまいります。

情報発信業務、広報業務につきましては、ホームページを整備・充実いたしまして、従来通り「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」を月刊で発行し、「市広報」・防府市文化財団広報誌「イベントアイ」への定期的な記事の掲載をしてまいります。更には、地域コミュニティFM(FMわっしょい)あるいは山口ケーブルビジョン等の活用により広報活動・情報発信を進めてまいります。

平成30年度図書館年報につきましては、来年度5月31日までに作成し、30年度の業務の点検・評価をいたしまして、更なる改善を進めてまいりたいと思っております。

サービス環境整備・安全対策・危機管理業務につきましては、施設・設備・備品の日常点検と安全で快適な利用環境の整備、的確な状況把握と防犯管理、危機管理体制の改善と整備に努めてまいります。公共図書館は、さまざまな不特定多数の人が自由に入出りできる空間ということで、利用者の安心・安全というものに特に注意を払っていきたいと思っております。そして、定期消防訓練を年1回、普通救命講習会をこれまでどおり実施いたします。

利用マナーの啓発業務につきましては、7月1日から8月31日までの期間に、「マナーアップキャンペーン」や「グッドマナーチャレンジ」を実施し、利用

者のマナーの啓発に努めたいと考えております。

1- (3) では、移動図書館車の「わっしょい文庫」を、引き続き運行してまいります。「わっしょい文庫」に常時3,500冊程度の図書を積載し、6コース37ステーションを2週間に1回の周期で巡回します。コース・ステーション等については、半年毎に見直しをいたします。利用頻度や市民のみなさんからの要望を踏まえまして、見直しをいたします。

更には、地域イベント等に合わせた移動図書館車の臨時出張サービス実施いたします。地域でさまざまなイベントが行なわれておりますけれども、特に春や秋には、多くの行事が行われますので、土曜日・日曜日・祝日などに行われる行事に合わせて、出張サービスを行ってまいります。

1- (4) では、レファレンス業務を更に推進してまいります。調査・研究・読書相談の業務を利用者の求めに応じ、さまざまな角度からサービスしてまいります。調査・研究活動の支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスにつきましては、防府図書館の所蔵資料だけでは十分に対応できないこともございますので、そうした場合、国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスを活用いたしまして、それによる閲覧とレファレンス業務を推進してまいりたいと思います。また、防府図書館はレファレンス協同データベースに加入登録していますので、誰でも普通にインターネットで見られる国立国会図書館のレファレンスのページの範囲を超えて、更に詳しい情報がデータベースから閲覧できることにより、一層充実したレファレンスサービスが展開できるものと思っております。

他の図書館や機関等に問い合わせたり案内したりするレフェラルサービスも、引き続き推進してまいります。また、レファレンス事例集や新着図書案内・テーマ別ブックリスト・パスファインダー（テーマ別の資料利用案内）についても、これらを更に充実してまいりたいと考えております。

更には、レファレンスに関する職員の研修を強化し、職員によるフロアワークにつきましても、強化してまいります。

また、図書館の資料の複写業務サービスに関しましては、著作権法や防府市手数料条例に基づく適正な複写サービスを実施してまいります。

2- (1) では、ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進事業業務ということで、第9回「防府市子ども読書フェスティバル」を5月26日に開催します。10月19日には、第29回「防府図書館まつり」を開催します。いずれも各実行委員会、ボランティア団体等と協働で、市民参画を進めてまいりたいと思います。

2- (2) では、ボランティア活動推進業務といたしまして、防府図書館ボランティア連絡会議を1月に開催し、2月には図書館ボランティア養成講座を4回シ

リーズで開催したいと考えております。

次の3- (1) では、イベント・懇談会業務といたしまして、前出の子ども読書フェスティバルにおいて、イラストレーターの岡本よしろう氏による講演会とワークショップを開催する予定にしております。「防府市子ども読書フェスティバル」の中でも行うビブリオバトルは、7月と11月にも開催し、3回行ってまいります。これについては、地域コミュニティーFMのFMわっしょいを活用しまして、実際に行われたビブリオバトルの内容を放送したり、ビブリオバトルを普及させるための広報活動を行ってまいります。「防府図書館利用者懇談会」は11月に開催いたします。

資料展示・展覧会業務は、展示コーナー・中央カウンター前・児童カウンター横での月例資料展示、新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示を定期的実施します。新聞・雑誌コーナー壁面での市民の作品展覧会も開催します。

3- (2) では、生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務としまして、生涯学習グループへの機会・場・設備・資料等の提供と活動支援を推進してまいります。

4- (1) では、地域（郷土）資料収集業務といたしまして、地域資料、特に防府市関係資料についての特徴的なコレクション形成の推進に努めてまいります。年間郷土資料収集目標冊数を450冊に定めております。

4- (2) では、上山満之進と三哲文庫顕彰業務といたしまして、展示室に常設展示しております「上山満之進と三哲文庫」資料の展示替えを行ってまいります。

また、「防府史料」刊行業務といたしまして、平成31年度におきましては防府史料第69集『防府地形の変遷』（御菌生翁甫・著）の刊行とホームページへの掲載を予定しております。『防府地形の変遷』は、かつて防府図書館から刊行された資料でございますが、正誤表がついていたりする部分など、きちんと校正しまして、改めてわかりやすい活字で復刻、刊行してまいりたいと考えております。

次に、4- (3) では、春川市立図書館との資料交換業務を推進してまいります。大韓民国春川市立図書館との資料交換協定に基づき、年1回、相互に100冊程度の資料を交換することにしております。これらの資料を整理、組織化しまして、市民の皆さんに提供してまいります。

5- (1) では、学校図書館支援業務を推進してまいります。学校図書館とのオンライン・ネットワーク・システムを活用した学校支援図書の利用促進に努めます。また、学校司書の研修の機会や場の提供に努めてまいります。学校図書館と公立図書館とオンライン・ネットワーク・システムを活用したサービスを

しておりますのは、山口県内では防府市だけでございまして、全国的に見てもこのようなシステムを活用したサービスをしているところは少ないので、先進事例として、これに改善を加え、更なるサービスの向上に努めてまいります。

地域文庫・団体貸出業務といたしまして、市内 15 か所の地域文庫及び市内の各学校、地域の子育て関係の団体にサービスをしております貸出文庫の利用の促進に努めてまいります。

5- (2) では、MLA 連携、文書館や博物館、美術館と図書館との連携業務を推進してまいります。資料の相互貸借、レファレンス協力、合同研修等を推進し、文書館・博物館・美術館との連携業務強化を図ってまいります。

そして、防府市文化振興財団内の連携業務も更に強化してまいります。財団内の連携推進会議を引き続き毎月 1 回開催いたしまして、アスピラート・ソラール・山頭火ふるさと館との連携の強化推進に努めてまいります。

6- (1) では、子どもの読書活動推進業務の更なる強化に努めてまいります。夏休みに子ども図書館員を開催し、また第 7 回「防府市図書館を使った調べる学習コンクール」を防府市教育委員会と共催してまいります。更には、職場体験・図書館見学等を奨励し、公共施設・商業施設等での出前講座・出張イベント等も強化してまいります。

6- (2) では、ボランティアとの連携・協働業務として、ボランティア主催行事・研修会等における図書館職員のブックトーク等の実施に努めてまいります。

7- (1) では、障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務を推進してまいります。展示資料、大活字本、音声資料等の整備・充実に努めてまいります。また視覚障害者用音声付インターネットサービスとして、現在、図書館内に端末機を 1 台設置しておりますが、このサービスの利用の促進に努めてまいります。

7- (2) では、対面朗読・音訳図書製作・郵送貸出等の業務を推進してまいります。

7- (3) では、ボランティア活動への支援に努めてまいります。ボランティアによる施設・設備・資料等の活用の促進に努めます。

以上、平成 31 年度の事業計画について御説明いたしましたが、この内容は、防府市文化振興財団の平成 31 年度の事業計画にも同じ形で反映されています。これまでの文化振興財団における事業計画書は、この図書館協議会で使用されたけれど、来年度の事業計画書におきましては、この様式と全く同じ様式で作成いたしております。そのことを併せて申し述べておきます。

○議長

ありがとうございます。それでは、ただ今の図書館からの御説明に対しまし

て、御質問・御意見等がございましたら、お願いします。

○館長

平成 31 年度の事業計画につきましては、特に新規の事業は上がっておりませんが、公益財団法人防府市文化振興財団の指定管理による運営が始まって、この図書館協議会がスタートし、防府市図書館サービス振興基本計画が実行に移されるようになったこの 3 年間に、新たに立ち上げました事業はたくさんございます。本日、お持ちしております「防府図書館 77 年のあゆみ」の 13 ページ、14 ページに書いてある事業につきましては、この 3 年間に行ったものでございます。平成 28 年（2016 年）4 月からの事業が書いてありますけれども、これらの事業を継承し、更に発展させていくことに力点を置いた計画を立てております。3 年間の事業を充実させ発展させていくという考えで、平成 31 年度の事業計画を作成しております。

○議長

はい。図書館サービスの事業が大変盛りだくさんになっているようではありますが、図書館自体、図書館の現場が関係することですので、図書館管理室としての来年度の事業、例えば先日の子ども読書活動推進協議会でも話題になりました第 3 次の防府市子ども読書活動推進計画、それから新聞等でも公表されておりますけれども来年度予算の中で、上山満之進翁の生誕 150 年事業、更にはパソコンの管理システムの更新などもおありのようですが、現時点で公表できる範囲で、簡単に御説明をいただければ。

○事務局

来年度の事業の主なものを御説明します。

現在の第 2 次防府市子ども読書活動推進計画は、平成 31 年度が終期になっておりますので、来年度は第 3 次防府市子ども読書活動推進計画の策定協議会を立ち上げまして、策定作業に入ります。来年度中に計画を策定完了する予定です。

それから、上山満之進生誕 150 年事業につきましては、新聞等でも報道されておりますけれども、上山満之進の遺品であります陳澄波作の絵画を、図書館に展示することと、元三哲文庫がありました現在の中央町公園の通称名を「三哲文庫記念公園」という形にしまして、皆様に知っていただくように、施設設備を行います。

学校図書館につきましては、平成 24 年度から順次、小学校 2 校、小学校 15 校それと中学校 10 校と 3 年にわたり導入してまいりました学校図書館管理システムですが、来年度の 8 月でリース契約がすべて終了いたします。今は、もう小学校の契約が切れているのですが、中学校と一体的に運営できるように、今は保守契約でつないでおりまして、中学校のリース契約終了に合わせて、集

中管理できるような図書館管理システムに更新する予定でございます。今よりも使いやすくなるように、そして資料の有効活用ができるようなシステムにしたいと考えております。まだ具体的なシステムは決定しておりませんが、決まりましたらお知らせしたいと思います。

○議長

今の図書館管理室からの報告も合わせまして、館長からの説明に対する御質問がございましたら、お願いします。

では、1ページの資料収集の関係ですけれども、毎年多くの資料が入ってくるわけですけれども、書庫の中は満杯に近づいているのではないかと思うのですが、その辺りはいかがですか。

○館長

書庫については、だいぶ手狭になってきており、それぞれの分類の棚によってはだいぶ窮屈な状況もあるのですが、全体としてはこれから書庫内の資料を整理することによって、まだ収蔵は可能であると思います。

今、開架と書庫の所蔵冊数がだいたい48万冊ぐらいあるわけですけれども、書庫には新聞等も置いてありまして、それらをきちんと整理することによって、効率的な収蔵をしていきたいと思っております。パンク状態ということではありませんが、書庫が現在の状態のまま永遠に使えるわけではないので、今後、収蔵方法、保存方針についても再検討しなければいけない部分があると思っております。

○委員

本の収蔵に関係してくると思うのですが、地域資料について、まだ収集はたくさんされていると思うのですが、利用者が利用しやすい状況になっているかという疑問があるので、開架の方の方針を考えていただけたらと思います。

たくさん出ているのだけど、どれを使えばいいかというのが、素人にはわかりにくいと感じますので、よろしくお願いします。

○議長

昨年度の事業評価の中にも、他の委員さんから同意見がありましたね。資料2の5ページの1行目ですね。これについては、今後努力していただければと思います。

何か御意見がございましたらお願いします。

○館長

郷土資料については、様々な分野にわたって収集し、開架貸出用・参考図書コーナーへの配置、書庫内での収蔵という3つの活用の仕方をしてはいますが、紛失した場合に、同一資料を収集するのが難しいもの、1冊しかないものについては、改めて手に入れるのが難しいために、書庫に入れております。2冊以

上ある資料については、開架に出しまして、参考コーナーあるいは郷土資料貸出コーナーに配架をしております。

郷土資料の利用の仕方については、職員がレファレンスコーナー（資料相談コーナー）に座っておりますので、そこでお尋ねください。職員は郷土資料に対する研修活動に日々努めておりますので、職員に遠慮なく尋ねていただくことによって、的確な資料提供ができると思っております。ただ、先ほども申しましたけれども、資料が1冊しかないものについては、書庫内に置いております。これは館内におけるOPAC（利用者用検索端末機の目録）で見えていただくようになるのですが、そうした目録についても分かりやすいものにしていきたいと思っております。

このコンピュータ目録については、ある時期から形が一部変わっていたり、時には分類記号が、同じ流れの本の中でも違っていたりすることを発見することがあります。目録分類の作業において、かつてのやり方が、今のやり方に合っていない部分については、見つけ次第、それに修正を加えることにしています。

それによって、利用者の皆様が館内OPACや御自分の家からインターネットで蔵書検索をするときに、更に分かりやすいものになっていくのではないかと思っております。レファレンス（参考業務）の研修と合わせて、目録や分類に対する職員の能力を高めていく研修も行いたいと思っております。

○議長

他に御意見、御質問等ございますか。

○委員

防府図書館資料収集要綱に関係しているかもしれませんが、平成29年度、30年度、31年度と図書購入目標冊数が同じ冊数で提示されていて、まだ30年度の購入冊数が分かりませんが、29年度の時点で既に目標冊数を大きく越えて、31年度も29年度と同じ数値が出ている。それに対して、視聴覚資料の目標は、図書収集要綱に基づいて、冊数を今後変えていくとか、要綱自体が変わっていくとか、視聴覚資料の増加は、障害者・高齢者に優しい資料の整備・充実で増えていくなど、目標冊数については今後どのような形になるのか知りたい。

○館長

目標冊数は、最低限、この冊数を確保したいという目標です。

資料によって、1冊が2万円も3万円もするような物があったり、1冊500円程度の本もあつたりですから、単に冊数の問題ではなく、質・量ともに充実していくということが目標になっています。そのために、最低限、この冊数は確保したいということであげている数字ですので、来年はもっと増やしていきたいというように考えることがなかなかできない冊数でございます。それで、

資料収集要綱については、ホームページでもご覧いただくことができますけれども、基本的な収集方針、基本的な図書館としての考え方を示しております。資料によって価格にかなりの開きがあるものですから、ただ単に冊数だけで考えて測っていくというのが、なかなか難しいので、ここにある数字は、最低限これだけは確保したい数字というふうに考えていただければと思います。

○議長

よろしいでしょうか。

○館長

補足です。資料費については、指定管理になりました最初の年は、備品として扱われる資料の図書及びCD、DVDの予算が2,300万円でした。

2年目から、これを2,500万円にしております。時々寄付などがあるので、それが臨時的経費として入ってくるのですが、基本的な当初予算としてある金額は、初年度が2,300万円、2年目3年目が2,500万円という数字で推移しております。備品(図書・CD・DVD)として扱われる資料の予算でございます。

視聴覚資料の目標点数が増えたというのは、先ほど申した通り、2年目3年目で備品購入費が増えましたので、それに伴うものです。初年度の決算状況を見て、判断したものであります。

○委員

計画についての質問ではないのですが、今後、実際活動するときに、7に障害者や高齢者に優しい図書館とありまして、計画ができた当初から、障害者が高齢者といつも一緒になっているのを、ずっと不思議に思っています。

アクティブシニアということで、県立図書館にもずっと言い続けておりますが、今後活動される中で、ボランティアとして丸めるのではなくて、もしかして老若男女の中に入れられるのではないかと思うのです。アクティブシニアは、60代後半から70代後半になってきていると思いますので、その方たちとうまく連携するという方向で、ボランティアの中にも含めるのではなく、その方たちの活用についても考えてほしい。

高齢者と障害者を保護することは必要なことですが、アクティブシニアの持っているノウハウを防府の若い人たちに指し示す機会が作られればいいのではないかと考えています。文言の中に落としてくださいというのはないのですが、アクティブシニアのノウハウを含めて、その力が若い人たちに目標として見つけていただけるといいなというのが感想です。

○委員

ボランティアは、高齢化しております。

私も含めて、主におはなし会の方は高齢者ばかりですので、これからは活躍している高齢者のノウハウを若い人たちにも引き継いでいっていただきたい

なあとっております。

1つ質問があるのですが、6子どもたちの読書活動を進めていく図書館という中で、職場体験・図書館見学等の奨励というのがあるのですが、近ごろの状況を教えてください。

○館長

図書館見学は、小学校を中心に、社会見学を兼ねてよく行われています。季節的に集中する傾向があるのですが、だいたい小学校2年生の図書館見学が多い状況です。すべて2年生ということではありませんが。

○委員

すべて小学生は、図書館へ1度は来ているということですか。

○館長

毎年、図書館見学に来る学校もあれば、あまり来ない学校もあるのですが、概ね、毎年でなくても図書館見学に来ています。

○委員

年に1回は来ているということですか。

○館長

いえ。数年に1回ということですよ。

○委員

もっと図書館の方で、要請をされたらいいのではないかと思いますね。

今、本当に子どもたちはスマホとかゲームとかいったものに夢中ですが、図書館に行って、図書館の様子を見て、ここにこんな本があるとかを実際に見ると話を聞くのとではずいぶん違うと思うのです。図書館の中で本を見たり、絵本を見たり、棚から本を取ってみたりという実際の経験があれば、一度図書館へ行ってみようという子どもも増えてくると思うのです。図書館に来ている子どもたちは多いですけども、図書館の立地条件等から、どうしても親と一緒にないと小学生って来られないというのが残念です。しかし、なるべく子どもたちに図書館に来てほしいとっておりますので、見学の時にでも、私たちがお手伝いできることがあれば言うだけとお手伝いできると思います。

○館長

ありがとうございます。

ちなみに、平成29年度の図書館見学については、佐波小学校・防府総合支援学校小学部・牟礼小学校・富海小学校・右田小学校・牟礼南小学校・松崎小学校・防府商工高校定時制・防府総合支援学校高等部、これらの学校が図書館見学に来ています。

そして、これとは別に職場体験がありまして、これは、少人数ですが、牟礼中・小野中・華西中・国府中・防府西高・山口南総合支援学校・誠英高校・安

田女子大・宇部フロンティア大学・梅光学院大学・右田中・桑山中・松崎小学校・防府商工高校という風になっております。

これは、昨年度の例ですけれども、小学校の図書館見学については、だいたい3年に1度は来ているように思われます。昨年度は、幼稚園も来ています。

○議長

昨年度の実施事業評価表の資料2の8ページにも、アクティブシニア向けの事業も望むと書いてありますが、これも、今後御検討いただければと思います。

○館長

この計画の中に、そういうことを示していないので、分かりにくいのですが、先ほど他の委員がおっしゃったように、私のイメージから言うと、ボランティアの9割は高齢者、65歳以上の方です。今後、そういうことを踏まえて計画を作成していくことも必要なのかなという気がします。

この計画は、「私たちの目指す図書館像」というものが元になっているわけですが、これを作ったのが平成18年9月で、防府図書館が3代目の図書館としてルルサス防府に移転する直前でした。その時、高齢者の方々が多くボランティアをしていらっしゃるという事実があったものですから、特にアクティブシニアという意識はなく、アクティブシニアは当たり前という認識でした。その認識は今でも続いております。7にある「障害者や高齢者に優しい図書館」というのは、長寿の時代になってきて、高齢者になると障害を伴うことが非常に増えてきており、元々は健常者だった人が、高齢になることによって、障害者になっていくという社会の現実があるということを踏まえて、そういう意味で、「障害者や高齢者に優しい図書館」という文言になったものでございます。

○議長

それでは、3のその他について、事務局から何かございましたらお願いします。

○事務局

今年度の協議会は、今回が最後でございます。

来年度の第1回協議会では、平成30年度の事業の評価をしていただく予定にしております。6月ごろに、図書館が自己評価をしたものを委員の皆様にお送りしますので、所定の評価シートに御意見をご記入いただきまして、それを元に第1回の会議で協議をお願いしたいと考えております。開催時期は、7月ごろを予定しております。またご案内いたしますので、よろしく願いいたします。

○議長

それでは、会議冒頭に申しましたように、図書館全体に関する御意見・御要望・御提案・御感想など、順番に簡単に一言ずつお願いできたらと思います。

○委員

子どもたちの読書に関することにつきましては、冒頭に御紹介いただきまし

たが、牟礼小の安村くんが名誉ある賞をいただいております。防府市は、県の方にもたくさん作品を出しておりました。それ以外にも、感想文や感想画も他市に比べたら、よく出ていると思っております。来年度以降は、図書館管理室の方にも、どの程度の作品が県の方にも出品されているかとかをお示しできたらなと思っております。

皆様にも以前ご案内しているかと思いますが、今年11月に山口市で中国地区の学校図書館研究大会が開かれます。防府市も隣接ということで協力するということと、今現在、牟礼南小学校の竹末教諭が事例発表することになっています。テーマが、「地域との連携」ということで、図書館からもありましたように、県内の先進事例であるオンライン・ネットワーク・システムを活用したものを、事例の中で紹介する予定になっています。また、どのような内容なのかを皆様にお示しできる時点になりましたら、御紹介したいと思っております。

○委員

お礼を述べさせていただければと思います。

まず一つは、防府市の図書館の事業について見せていただいて、印象的には、待っている図書館ではなくて、打って出ている、アピールしていこうという姿勢が見える図書館運営ということで、ありがたいなと思っております。いろいろなイベントに参加していただくのもそうですが、わっしょい文庫も大変ありがたいと思っております。

そこでお願いなのですけれども、この度、私は小学校の方に、校長としておりますけれども、わっしょい文庫が来る時の子どもたちの喜びというのが大変感じております。今まで中学校でしたので、見たことも感じたこともなかったのですが、そう考えますと、わっしょい文庫の運行につきましては、図書館から遠いところの地域の小学校を回っていただいているのですが、では、近くの小学校の子どもは、図書館にどれだけ自ら足を運んでいるのかと考えますと、距離に関係なく、どの小学校も、わっしょい文庫を運行していただくのは、予算的に難しいと思うのですが、いつの日か予算がつかましたら、すべての小学校を回っていただくとうれしいなと思っております。

それからもう一つは、図書館管理室との連携になるかと思いますが、先ほど出ました職場体験・図書館見学等ですが、これは、データとして小・中合同校長会でお示しいただいて、奨励を励んでいただければと思います。それと、私見ですが、中学校では保育実習とか、幼稚園を訪問したり赤ちゃんに来てもらったりという授業がございます。その際に、読み聞かせの効果というものを取り入れていただけるように、校長先生方、学校に推していただきまして、子ども読書の素地を作っていく、将来、読み聞かせができる親を作っていくという形の事業にも取り組んでいただければと思います。

○委員

私は、今、子どもたちの健やかな成長に関わる市民会議のお世話をしております。子どもたちの健やかな成長に、大きな役割を果たすものの一つに、読書活動があると思っております。図書館事業計画、「6」で子どもたちの読書活動を進めていく図書館をめざして、子どもたちや保護者が参加できるいろいろな事業に取り組んでおられるのは、とてもありがたく、感謝しております。年々工夫を凝らしておられるので、参加者も増えていっておりますが、その輪が更に広がっていくことを期待しています。

なお、市内のそれぞれの地域には、青少年育成連絡協議会があり、どこの地域でも家族の絆を深める「家庭の日」運動を推進していただいております。中でも館長が会長を務めておられる西浦地区では、「家庭の日」運動の一つとして、「音楽と語りのほのぼのコンサート」を展開しておられます。そこでは、お話の語り、あるいは絵本や紙芝居の読み聞かせ等を子どもたちや保護者を集めて、年一回実施しておられます。その輪が西浦地区でも広がっていているとお聞きしております。読書の好きな子どもたちや保護者が育っていくことを、私たち市民会議は大変喜んでおり、期待しているところでございます。

図書館には、お世話になりますが、今後ともよろしくお願いいたします。

○委員

今回、図書館長が変わられるということで、今は、4月からが不安でいっぱいです。ボランティア活動を続けていくうえで、館長のお知恵もたくさんお借りしましたし、駄目なことは駄目と教えられてきましたし、多くのことを学ばせていただきました。4月からも今のペースで活動ができるように、また図書館ともいい関係でいられるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

○委員

母親クラブは、防府図書館の皆様によって、桑山の図書館の時から育てていただきました。ある方に、「母親クラブさんは、図書館に育ててもらっちゃったよね。」と一週間ぐらい前に言われたばかりです。館長はお代わりになりますが、これからも今まで以上に連携を取って、図書館の研修室をお借りして、子どもたちと共に活動ができ、その帰りに子どもたちが図書館の本に親しんでくれたらいいなということで、平成31年度には、そういうことも計画していきたいと思っております。ぜひこれからも連携の御協力をお願いしたいと思っております。

○委員

防府友の会という名前が、漠然としていて分かりにくいかと思いますが、図書館史の77年のあゆみの中の6ページの最後の3行に防府友の会のことが書かれております。

防府友の会は、全国友の会の一つで、婦人之友社の雑誌「婦人之友」の愛読者の会から生まれた、今はもう90年くらいの歴史ある会です。「婦人之友」という雑誌は、明治時代の「家庭之友」の創刊から、今116年117年くらい経っています。

その「婦人之友社」を作ったのが、防府の三田尻出身の羽仁吉一という人なのですが、森川館長によって平成6年に羽仁吉一展を開いていただき、それから私たち防府友の会も図書館の中での活動の道が開かれて、不特定多数の方の中に防府友の会が飛び込んでいって、いろいろな情報を発信できるという機会を作っていただいたことに感謝しています。

また、ただ本好き、図書館好きの私が、図書館協議会に入らせていただいて、利用する側から見ていた図書館が、この会の中で多方面の知識を与えていただいて、私も分かったからには、情報を外にも発信していきたいなと思ってやってきました。館長には、本当にお世話になって、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

○委員

防府図書館77年のあゆみにも書いてありますが、さぎなみ21は、平成12年(2000年)に発足とありますが、そのころから森川館長には援助していただいて続けておりますが、これからは私たちが独り歩きしていかなくてはならないと思ひまして、少し不安な面があります。

私たちが活動している中で、不登校の子どもたちがいる所に、年に一回程、出前授業に出かけて行っております。私たちが伺った際には、中学生が10人程度、出席してくれます。中には全く本を読まない子がいるのですが、自分たちが朗読劇をした当日は、子どもたちはすごく本を読むのです。それは、私たちが普通のおばさんとして行くので、親しみが湧くのか、本当によく本を読みます。子どもたちに紙芝居などを読ませるのですが、紙芝居は聞き手に顔か見えなからいいのか、順番に読むから自分が読まないと次に進まないからか、ちゃんと読んでくれます。それを先生達をご覧になって、大変感激してくださいます。それで、この度、中学校では中学生がおはなしの読み聞かせをされると伺ったのですが、私たちが会っている中学生のその子たちも、台本を渡すと一回で読みきるので、若い子は自分たちと比べて、すごいなと思うのです。

自分たちが読める本を、他の子や、自分たちより小さい子に読んであげることが中学生でも十分にできると思うので、子どもたちをどんどんおはなし会に参加させてほしいという話が出ていましたが、その通りだと思います。

それと、アクティブシニアである私たちボランティアは、圧倒的に女性です。男性が少ないのです。見ていると、参加される男性がいらっしゃいますので、その方たちを引っ張り出す力が必要だと思います。館長には、男性のアクティ

ブシニアを育てていただければと思います。

○委員

私もおはなし会を30数年やっております、最初に始めたのですが、その頃は、全くおはなし会というものをやっていた時代でしたので、いきなり相談したにも関わらず、図書館で受け入れていただきました。それ以来延々と今まで続けております。大変お世話になりました。確かに、みなさんがおっしゃるように森川館長がおやめになるのは、大変残念です。しかし、他の職員・司書の方が、随分、育っているように思います。いつだったか、お話のへやの扉を開けたら、職員が中にいて、次のおはなし会の練習をしていますということでした。とても感心しました。図書館の若い職員のブックトークは上手で、大変面白く聞けますし、職員が頑張っているなど思っております。

○委員

一つお伺いしたいのですが、平成18年の「私たちの目指す図書館像」が1から7までありますが、これは見直しをかけるとか、どこかで変えていくということが可能なのかなと考えております。

最後は感想というかお願いなのですが、既に実行されていることかもしれませんが、今、子どもたち、小・中・高校生の周りには、いろいろな情報があふれています。例えば、フェイクニュースなどを見極めるという力が、学校だけではなくて、公立図書館でも職場体験や学校見学や子ども図書館員などでも、検索する力ではなくて、情報の良し悪しを見抜く力、すなわち自分たちが評価できる力を身につけるような情報リテラシーという力を、学校と共に、図書館も関わっていただければと思っています。

森川館長はお辞めになりますが、種をまかれて、芽出て、次の世代の方たちが育っていると思いますので、私としては、ある意味で安心しています。図書館員だけでなく、地域の方にも芽吹いているので、いずれは館長が高齢者になられて、アクティブシニアという立場で、先を走っていただけたらと思います。お世話になりました。

○議長

この4月から館長が変わられることになりましたけれども、従来の図書館サービスの継続・発展に努力していただければと思います。先ほど、他の方からも職員が大分育ってきているという話がありましたけれども、副館長をはじめ、今後更なる図書館の充実・発展に頑張っていただければと思っておりますので、よろしくお祈いします。

そして、森川館長は、図書館の講座の講師としては、おいでになりますか。

○館長

今もしておりますけれども、「古典を味わう会」と「読書会」の講師は続けて

参ります。講座の講師というか、生涯学習ボランティアとして図書館と関わっていきます。また、他の行事についても、控えめに図書館ボランティアとして関わっていきたいと思います。どうぞ、今後ともよろしく御指導くださいませ。

○議長

当分の間は、いろいろと質問等もあろうかと思しますので、どうぞ遠慮せずに意見を言っていただきたいと思います。

それでは、ありがとうございました。

本日は、平成30年度第3回の図書館協議会でしたが、来年度の図書館事業計画の御説明を受け、館長交代ということもございしますので、委員さんから感謝の言葉も含めて、いろいろな御意見をお聞きいたしました。

図書館事業が、更に一層充実したものになりますように、今後とも御協力をよろしくお願いします。これをもちまして、本日の議題はすべて終了しました。